

講座紹介

※申し込み人数が3人以下の講座は、実施いたしません。

数学 英語	特別講座		・特定分野の知識を深めたり、苦手分野を克服したい方向けの各種講座 ・夏学期からの入塾希望者および短期でヴェリタスの授業を受講したい方の為の集中講義など	P2
数学	基礎コース (分野別)	講義	・該当分野未習の方 ・不安があるので学びなおしたい方を対象としてヴェリタス流に一から講義する講座	P3
		演習	・該当分野既修の方を対象として問題演習を行う講座（既修内容の確認のため、申し込み前に講師との面談をおすすめします）	P4
	受験コース		・今年度大学受験をする方を対象とした講座	P5
	理科	受験コース		・今年度大学受験をする方を対象とした講座
英語	基礎コース	初級	・文法を学んでいる途中の新中2～新高1生向けの講座	P7
		中級	・文法全範囲既修の方を対象とした講座	P8
		上級	・発展的な英語学習をしたい人のための講座	P8
	受験コース		・今年度大学受験をする方を対象とした講座	P9
国語	受験コース		・今年度大学受験をする方を対象とした講座	P10

〈講座案内(左欄)の見方〉

◎ M6

◎印:通常授業を受講していない外部生にもおすすめの講座です。

講座コード/ 講座コードは外部生および内部生が必修以外の講座を申し込む場合、申込書に記入するものです。

中学数学 代数演習

講座名:講座の名称

通常授業との対応:対応する内部生の通常授業

例1)F1 必修-①:F1受講生の必修講座2回のうち、1回目の講座です。
F1受講生は別途申込及び費用は不要です。

F1 必修-①

例2)HFA・B 必修-②:HFA・HFBの受講生の必修講座2回のうち、2回目の講座です。
HFA・HFBの受講生は別途申し込みおよび費用は不要です。

〈申し込み上の諸注意〉

- 内部生は原則として、受講クラスにつき2時間の講座2回が指定の必修講座です。
必修講座は改めてお申し込みの必要はございません。
ただし、以下のクラスに関しては、必修講座の回数および時間が異なります。
- ・受験科数学Uコース理系と数ⅢC速習は2時間の講座1回と4時間の講座1回が必修講座です。
 - ・F4クラスと受験科物理は4時間の講座1回が必修講座です。
 - ・受験科数学Uコース文系と受験科生物は2時間の講座1回が必修講座です。
- 外部生の方、および内部生で受講クラス必修講座以外の講座をご希望の場合、講座によっては申し込み前に講師との面談が必要です。詳しくは各講座の内容紹介をご確認ください。

春期特別講座 いずれも外部生におすすめの特別講座です。

講座コード/ 講座名	範囲	内容紹介
◎ S1 場合の数・確率講義	数A	「場合の数・確率」の未習者を対象に、「場合の数・確率」全範囲を講義・演習する講座です。前半は、直感的に行っていた「ものの数え方」を、数式を用いて体系的にまとめていきます。単一のモデル(nCr)から、様々な事象の数え方を扱うことができるということを実感してもらい、確率という概念につなげてゆくことが前半の目標です。後半は、まず、そもそも確率とは何か、何を「1つ」として数えると正しい確率が導かれるのかのイメージをもってもらうことから始めます。その後、「確率空間の設定」「確率空間の公理」「何を事象とするのか」「独立、排反」という基礎重要事項を講義し、確率の有名問題の演習を通して定着をはかります。また、「期待値・分散」といった統計的手法の初歩も扱います。確率は、正しい答えを理解することよりも、間違った答えに対し「何が間違っているのか」を理解できることが重要です。演習ではディスカッションを通じ、一つの問題を複数の視点から眺めることで、自身の誤解をどのように解くかの手がかりを得てもらうことを目指しています。
◎ S2 英文法基礎完成	新中2～ 新高1	本講座は新中2～新高1生を対象に、英文法の基礎を完成させる講座です。学ぶ順番としてはまず「語・句・節」と品詞に始まり、時制・相・法・態という動詞の語形変化を学ぶことで単文の複雑化を修得します。次に関係詞や比較を含む接続詞による節同士の結合、従属節のネクサス化による準動詞を学ぶことで重文・複文の複雑化を修得します。単に各分野を修得するに留まらず、それらを有機的に繋げることで英文法の基礎を体系的に理解することが目的です。

◎印：通常授業を受講していない外部生にもおすすめの講座です。

数学分野別講義コース 該当分野未習を前提として、一から講義するコースです。

講座コード 講座名 通常授業との対応	範囲	内容紹介
◎ M1 初等幾何 講義 F2 必修-①	数A	三角形の五心(重心、内心、外心、垂心、傍心)、チェバ・メネラウスの定理、方べきの定理を中心に、すべての図形問題の核をなす「円と三角形」について重要な基礎事項を講義していきます。答えさえ求まればよいという姿勢ではなく、その図形が内包するものを探り、定理の背景となる図形構造をとらえてもらうことに重点をおきます。予備知識は必要ありません。
◎ M2 写像と軌跡 HFA 必修-②	数Ⅱ 数B	「ベクトル、図形と式」の基礎を終えた人を対象として、「そもそも方程式で図形を表すとはどのようなことなのか?」「パラメータで表すこととどのように異なるのか?」から出発し、パラメータ自身の司る図形量を明らかにすることで、軌跡・領域という分野の基本を押さえます。後半は、「順像」「逆像」という言葉をキーワードに、いかにして写像の値域を求めるかを研究します。最終的には、高校数学に登場する様々な写像の特徴・構造をとらえてもらうことが目的です。
◎ M3 写像と軌跡の基礎 HFB 必修-②	数Ⅱ 数B	「ベクトル」の基礎を終えた人を対象として、座標を用いて図形の性質を考える分野である「図形と方程式」を扱います。図形を方程式で表すこと、パラメータで表すことのそれぞれの意味をはっきりさせることから始め、軌跡・領域という分野の基礎を固めます。後半では、高校数学に登場する写像を例に、写像の値域を求める手法である「順像法」「逆像法」の土台となる考え方を扱います。
◎ M4 複素平面 講義 数ⅢC速習 必修-①②	数Ⅲ 数C	「複素平面」未修者を対象に、5日間で複素平面の全範囲を講義・演習する講座です。この講座1つで基礎レベルから入試問題レベルまですべてを網羅するので、新高3理系で複素平面未修の人は必須です。複素数を平面上の点と同一視することから始め、前半では複素数の四則演算に図形的解釈を与えることで、初等幾何の様々な問題を複素数を用いて解決していきます。後半には、反転について時間をかけて講義・演習し、最後に一次分数変換を扱います。
◎ M5 二次曲線 講義 数ⅢC速習 必修-③	数Ⅲ 数C	「二次曲線」未修者を対象に、5日間で二次曲線の全範囲を講義・演習する講座です。この講座1つで二次曲線のすべてを網羅するので、新高3理系で二次曲線未修の人は必須の講座です。 「放物線」「楕円」「双曲線」のそれぞれを、「2焦点からの距離による定義」「焦点と準線からの距離の比による定義」に基づいて自由に立式できるようになることから始め、「円錐の切り口」「極座標表示」を扱い、最終的には、標準入試問題の演習まで行います。

■ 参考資料 ― その他の講習で分野別講義を受けることのできる分野一覧

	講座名	対応する範囲
夏期講習(8月)	「初等幾何 講義」 「論理の利用 講義」 「確率 講義」 「数Ⅱ微積分 講義」 「写像と軌跡 講義」 「二次曲線 講義」	数A 数I, 数A 数A 数Ⅱ 数Ⅱ, 数B 数Ⅲ, 数C
冬期講習(12月)	「確率 講義」	数A

※ その他、「整式」「指数・対数関数」「三角関数」「数列」「ベクトル」「数Ⅲ 微積分」等の講義を受講したい場合は、通常授業を受講してください。
※ あくまで予定のため、開講されないこともあります。予めご了承ください。

数学分野別演習コース

該当分野の基礎が既習であることを前提として、問題演習を行うコースです。
(既修内容の確認のため、申し込み前に講師との面談をおすすめします)

講座コード 講座名 通常授業との対応	範囲	内容紹介
◎ M6 中学数学総復習 I F1 必修-①	中学 数学	中学数学を一通り終えた段階の人を対象に、標準～やや難レベルの問題を中心に演習を行います。授業の最初に基礎知識の確認を行い、その後テスト、解説と続き、類題を宿題として課すという形態になります。中学数学の重要なトピックスをすべて確認・定着させ、高校数学へのスムーズな橋渡しを行うことがこの講座の目的です。
◎ M7 中学数学総復習 II F1 必修-②	中学 数学	中学数学を一通り終えた段階の人を対象に、標準～やや難レベルの問題を中心に演習を行います。授業の最初に基礎知識の確認を行い、その後テスト、解説と続き、類題を宿題として課すという形態になります。中学数学の重要なトピックスをすべて確認・定着させ、高校数学へのスムーズな橋渡しを行うことがこの講座
◎ M8 場合の数・確率 基礎演習 F3 必修-①	数A	「場合の数」「確率」を一通り終えた人を対象に、具体的で日常に密着した問題をpick upして演習を行います。場合の数であれ確率であれ、基本は"数える"という行為からはじまります。"数える"ということは、一見簡単そうですが、 ・自分にとってわかりやすいように分類する ・何らかの意味付けを行う(言葉への変換) ・対応する知っているものをみつける ・実験し法則性を見出し一般化する など、抽象的思考の基本となるものです。高校で扱う数学の中では最も日常(具象)との接点があり、その上抽象とも接点をもつこの分野を楽しみながら身に付けましょう。
◎ M9 数I・数A 上級演習 -同値変形の技術- F3 必修-②	数Ⅰ 数A	「整式の扱い」「二次式とその周辺」「高次方程式・不等式」「絶対不等式」「論理・集合」を題材としたやや難レベルの問題演習を通じて、今後難問にアプローチする際必ず必要となる、「同値変形による解答作成の技術」を身に付けてもらいます。答えさえ求められればよいという、いずれ限界の来る勉強法に、早い時期に終止符を打つことを目的とします(難易度の高い講座のため、受講には担当講師との面談が必要です)。
◎ M10 三角関数・数列 基礎演習 F2 必修-②	数Ⅱ 数B	三角関数・数列を一通り終えた人を対象に、様々な問題演習を通して、初等関数・離散関数の理解を深めることを目的とする講座です。「なぜ、このような概念が必要なのか?」「なぜ、このようにすると解けるのか」を常に考えながら問題演習を行い、やり方を覚えるのではなく、解法に至るまでの自然な頭の流れを養成します。
◎ M11 数Ⅱ微積分 基礎演習 HFB 必修-①	数Ⅱ	「数Ⅱの微積分」を一通り終えた人を対象に、三次関数のグラフの性質から求積にいたるまで、基本～標準問題を網羅した演習を行います。自分一人の力で解きされることを目的とするので、授業内演習の時間をたっぷりとりま
◎ M12 数Ⅱ微積分 上級演習 HFA 必修-①	数Ⅱ	初日に微積分全体の基礎事項の確認、及び基本問題15題の解説を行い、2日目以降「関数方程式」「物理的問題への応用」「様々な分割による求積」「二変数関数の微積分」の講義、及び演習を行います。かなりハードな講座となりますが、より深い内容をより分かりやすく解説し、少しでも微積分のイメージを広げてもらえればと思っています(難易度の高い講座のため、受講には担当講師との面談が必要です)。

数学受験コース

実戦的な入試演習を行うコースです。

講座コード 講座名 通常授業との対応	範囲	レベル	内容紹介
◎ M13 近似と微積分 U12 必修-①	数Ⅱ	☆☆	扱う関数の範囲は数Ⅱですが、数Ⅱ・Ⅲを問わず微積分の基礎となる「微小量」という概念を軸に、これまで公式として与えられてきた式の意味を一つずつ見直すことで、微積分についての体系的な理解を得ることを目指します。「微小量」という概念を知った途端、それまで単なる記号に過ぎなかったdyやdxがいきいきと動き出し、微積分が具体的なイメージを持って理解されるはずです。微積分の計算はできてその意味がよく分らない、ちょっと難しくなるとどう解いて良いかわからないという人に最適の講座です。
◎ M14 大学入試基本演習補遺 -U34ダイジェスト-	数Ⅰ 数A 数Ⅱ 数B 数C	☆☆ ☆☆	1・2月で扱った論理・式の見方の総復習を行います。すべての問題に対して、十分な時間をかけて予習をしていただくことが前提です。授業内で復習を終わらせるつもりで、受講に臨むことを期待します。聞いてわかることと自らの力で解けることには大きなギャップがあります。そのギャップを埋めるには、安易に答えを見るのではなく、適切なレベルの良問に対して脳に汗をかきながら考え続けることしかありません。この3月で標準的な入試問題はすべて一人で解けるようになります。そして4月以降、やや難～難レベルの問題に対して、アプローチできる余裕をもてるようにすることが目的です(外部生の受講には担当講師との面談が必要です)。
◎ M15 数ⅢC分野別総整理 Uコース理系 選択必修-②③	数Ⅲ 数C	☆☆☆	数ⅢCについて一通りは学んだが、まだ入試問題を解くには不安があるという人を対象として、数Ⅲ・C全分野にわたって、「概念」「定義」「定理」「基本手法」を演習を通じて整理・確認する講座です。4月以降、標準～やや難の入試問題に自らアプローチできるようになるためのベースをつくることを目的とします。扱う問題は、数Ⅲ・Cの全範囲について基礎事項の確認を行えるよう配慮しセレクトします。また、入試問題を解くために必要な手法は、例題を交えてすべて講義します。
◎ M16 数ⅢC大学入試基本演習 テストゼミ F4 必修-①②	数Ⅲ 数C	☆☆ ☆☆	数ⅢCにある程度自信のある人を対象として、実践的なテストゼミを行う講座です。90分5問のテスト後、解説という形態をとります。テストは添削して翌日返却します。典型問題からやや高度な問題を含む25問を通じて、理系範囲について問題の構造を把握し、より深い理解を養成します(外部生の受講には担当講師との面談が必要です)。

※ 複素平面・二次曲線を一から学びたい方は、分野別講義コースの複素平面(M4)・二次曲線(M5)の講座紹介をご覧ください。

理科受験コース

今年度大学受験をする人を対象としています。

	講座コード 講座名 通常授業との対応	内容紹介
物理	◎ P1 エネルギーと角運動量 受験科物理 必修-①②	今までは運動方程式の「外力の作用が速度変化を生む」という観点を利用して運動を解析してきました。これに対し、本講習では「運動エネルギー」および「角運動量」という量を導入した上で、同様に運動を解析していきます。 本講座では、「これらの量が時間に依存しない」という新しい形の法則(保存則)を習熟すること、運動方程式から派生したこの保存則がどのような状況において運動方程式よりも便利なのかを整理することの二点を目標とします。また、「円運動」や「剛体のつり合い」、「非貫性系」などのテーマについても扱い、これにて力学全範囲の講義は一通り完了となります(既習範囲の確認の為、外部生の受講には担当講師との面談が必要です)。
化学	◎ C1 化学平衡と酸塩基・酸化還元 受験科化学 必修-①②	「化学平衡」、「酸塩基」、「酸化還元」、「電池・電気分解」の各分野の講義および演習を行います。これらの分野は入試において好んで出題され、ほんの少しの理解度の違いで得点に大きく差がつく分野です。単なる公式の暗記にとどまらず、頭の中で描いた分子モデルを自分で動かすことによって、マクロな現象をミクロな視点から理解し、自分で説明できるようにすることを第一の目標とします(外部生の受講には担当講師との面談が必要です)。
生物	◎ B1 総論的入試問題演習 -物質と細胞-	生物という科目は、基礎となる構造をつかめば、一見まとまりない知識に対してもつながりを捉えながら理論的な考察が可能になる科目です。この講座は、生物は丸暗記にならざるを得ないという意識を払拭してもらうことを目的としています。 本講座では、各回の冒頭に問題演習を行い、その後各問題において問われていることおよびその背景にある生命現象の基礎構造の解説を行います。扱う問題は生体を構成する物質」、「代謝」、「細胞分裂」、「転写・発現」、「遺伝」、「発生」、「進化」、「物質循環」といった、生物学全般にわたる理論の骨格を成す分野です。ただの知識ではなく、有機的につながった知識に変化させ、それと同時に、添削を通じて、(1)自力で理論を展開する力、(2)その理論を限られた文字数の中で文章化する力を付けていきます(丁寧に添削指導します)。みなさん一人ひとりに今後1年間の勉強方針の提示を行うことが本講座の目的です。

※ ◎のついている講座は通常授業を受講していない外部生におすすめの講座です。

■ 参考資料 — 理科・分野別取り扱い時期

物理		化学		生物	
分野	時期	分野	時期	分野	時期
力学	1-3月	理論	1-3月	総論	1-3月
熱学	4月	無機	4-5月	各論	4-7月
電磁気学	5-7月	有機	6-7月		
波動	8月				
原子	8月				

英語基礎コース 初級 新中2～新高1生を対象とする講座です。

講座コード 講座名 通常授業との対応	対象学年	内容紹介
◎ E1 〈文法編〉 中学英語総演習 α L1 必修-①	新中2～ 新中3	中学英文法を一通り学び終えた人を対象に、中学英文法の総復習を行います。動詞の時制・助動詞・受動態・関係詞・不定詞など、重要な文法事項に焦点を当てつつ、すべての文法分野をおさらいします。授業は①文法事項の確認、②英作文演習、③長文問題解説の3つのパートから構成されます。うち、②英作文演習では、毎回約50題近くの和文を英訳し、各分野の英文構造を完全に頭に定着させます。本講座は、「考えてできる」初歩的なレベルから、「見ただけで英文が勝手に出てくる」より高度なレベルにまで英語のfamiliarityを強め、文字通り英語を「身に付ける」ことを目的とします。
◎ E2 〈英会話・読解編〉 中学英語総演習 β L1 必修-②	新中2～ 新中3	英検3級程度のリスニング演習と中学英文法の知識のレベルで十分に読める英文の読解演習を行います。前半のリスニング演習では、ネイティブの発音に慣れ、「目」で培ってきた英語力を「耳」へと応用することを目的とします。さらに、日常の英会話で使える表現をピックアップして、さらに「口」へと応用しましょう。後半の読解では、比較的長めの英文を通じて、自ら英文を読み切ることができる楽しさを経験してもらうことを目的とします。リスニング・読解の両方を楽しく学習することで、自らが、英語を「書く」ばかりでなく「読み、話し、聞くことができる」一人前のEnglish Userであることが実感できるでしょう（長文問題が毎日一問ずつ宿題となります）。
◎ E3 総合演習による 重要文法項目の定着 L2 必修-①	新中3～ 新高1	先行学習により基本的な高校英文法を見渡した中学生を対象に、とりわけ重要な文法事項に焦点をあてて、演習を行います。具体的な焦点は、①基本五文型、②関係詞、③準動詞、④時制と話法、⑤仮定法の5つです。授業は、①要点の確認、②英作文演習、③長文問題解説の3部構成です。（③は自宅で問題を解いてくることが前提されます）。どのパートもその日の文法事項にテーマを絞って解説を行います。取り上げる5分野は、あらゆる英文読解に必須の重要事項です。きたるべき応用学年への準備として基礎固めをし、知識を定着させたい中学生に最適の講座です。
◎ E4 構文入門講義 －長文読解の指針－ L2 必修-②	新中3～ 新高1	先行学習により、基本的な高校英文法を見渡した中学生を対象に、構文の入門講義を行います。一見さまざまなヴァリエーションをもつかに見える複雑な英文は、実はごく限られた単純な文法「構造」に解体、還元することができます。そうした「構造」の代表は何と言っても基本五文型ですが、その他にも、動詞と前置詞の相関関係、接続詞と副詞の呼応関係など、さまざまなパターンがこの「構造」に含まれます。そうした英語の核とも言える「構造」に焦点を当てて、英文法を鳥瞰してみようというのが、本講座の目的です。したがって、本講座は個々の文法事項の確認に比重はおきませんが、英文全体に通底する基本原理を学ぶことで、中高英文法の基本を全体的にみわたす機会となります。今後の複雑な英文読解の明確な指針を手にししましょう。

■ 参考資料 — VERITASの英語クラス編成と到達可能な各種英語検定試験のレベル対応

レベル別 最終到達ライン	英検	TOEIC	TOEFL(PBT)	TOEFL(IBT)
Level 1	3級～準2級	320	410	35
Level 2	準2級～2級	420	450	45
Level 3	2級	600	510	65
Level 4	準1級	790	570	85
Level 5	1級	900～990	630～677	110～120

※ どの試験に挑戦するかは、個人の興味と関心により、初講時に個別に設定することになります。
個々の試験の測定できる技能には差異があり、必ずしも相互のレベルが完全に一致するものではありません。
※ どのレベルのクラスも、基本的に3月終講となるため、自らの選択した試験を、TOEIC・TOEFLでは3月に、各種英検では受講中の1月もしくは終講後の6月に受験することになります。

英語基礎コース 中級 文法全範囲の既習が前提となります。主に新高2生を対象とする講座です。（意欲ある新高1生の参加も可）。

講座コード 講座名 通常授業との対応	レベル	内容紹介
◎ E5 〈文法・作文編〉 構文総演習 L3・IL3合同 必修-①	☆☆	高校英文法既習者を対象に、読解に必要な不可欠な構文の演習を行います。特に、①時制、②原因・理由、目的、結果、③条件、仮定、④譲歩、⑤その他の重要構文を取り上げます。授業は、ジャンル別英作文という形式を採用し、ひとつの意味表現に対して、いくつもの言い換えを行い、分野にまたがる文法の横断的理解を確認します。たとえば「～するとすぐに」という意味表現のためには、on Ving(動名詞)、the moment SV(接続詞)、no sooner had SV than SV(比較)といった多岐にわたる表現を用いることが可能ですが、このように1つの意味表現と複数の対応表現を学習していくことで、それまで断片的に散逸していた英文法の知識を有機的につなぎ合わせ、英語理解のための強固な織目を編み上げていきます。 授業は、 1. あらかじめ用意してもらった各人の英作文を検討して、主要構文の総合チェックを行ない、 2. 主要構文が含まれる高度な短文和訳の演習を行い、その場で解説していきます。基礎から応用、応用から本格へとレベルアップするために、いずれ劣らぬ珠玉の問題を精選し、より実践的な理解力を深めていきます（毎日回収される各人の答案は、講師が添削し批評を加えたうえで、返却します）。
◎ E6 〈読解・速読編〉 速読入門 L3・IL3合同 必修-②	☆☆ + α	高校英文法既習者を対象に、速読力を身につけるための応用力を養成する講座です。正確に文の構造がとれるという段階に達した人には、より実践的な課題として「正確かつ速く読む」ことが要求されます。本講座では、スラッシュ・リーディングの手法を用いた目の動かし方に加え、パラグラフ・リーディングの手法を用いた大意要約の仕方を習得します。授業構成は、1日目にスラッシュ・リーディングの手法、2日目にパラグラフ・リーディングの手法を概説した後、3日目以降、実践演習に移ります。実践演習では、会話文（3日目）、随筆文（4日目）、論説文（5日目）とテーマを絞り、スラッシュ・リーディングだけで読めるレベル（会話文）から、パラグラフ・リーディングを併用せねば読めないレベル（論説文）への漸次的移行を図ります。英文読解を通じて、国語力という副産物も得られることが実感されるでしょう。

英語基礎コース 上級 文法全範囲の既習が前提となります。進んだ学習をしている新高2生を対象とする講座です。

講座コード 講座名 通常授業との対応	レベル	内容紹介
◎ E7 〈文法・作文編〉 和文英訳演習上級 －評論編－ L4 必修-①	☆☆ ☆☆ + α	発展的英語構文を習得し、かつ、豊富な英語表現を身につけた生徒を対象に、難解な和文英訳の訓練を行います。通例和訳問題として出題されるような文章を、本講座では逆に英作問題として扱います。授業は2パートからなり、前半では、諸構文・諸表現を網羅し、後半の英訳のための下地を整えます。後半では、我が国の著名な評論家（夏目漱石、小林秀雄等）による文章を英訳してもらいます。脳内の知識の武器庫から、必要に応じて武器を援用する、文字通り「実戦」演習です。これまでに培った構文力、知識をフル稼働させて、自由に、美しく、力強く、英作文をしてください。もはや「英作」ではなく「翻訳」です。夏期集中授業では、小説編を行います。
◎ E8 〈読解・速読編〉 要約演習 L4 必修-②	☆☆ + α	この講習の内容は、5日間で、過去に大学入試問題に出題されたパラグラフを100個読むことです。この講座で身につけられうることは以下の5つです。第1に、大量の過去問を素早く読む力。第2に、与えられたテキストを正確に読んで要旨を理解する力。第3に、読み取った要旨を日本語に変換して短文要約を作る力。第4に、正確な読解を前提にした自由な議論によって著者の主張を自分の頭で考え直し、批判的に検討する力。第5に、英語パラグラフ100個分の教養と議論の経験、またこの経験と不可分な、英語への慣れと自信です。この講習は、入試問題に出題された英文のみを扱います。しかし、入試が終わって大学に入れば英語で大量の英文を読み、重要度に応じて取捨選択をすることにならざるを得ませんから、入試の後の人生でも必ず役に立つはずです。参加者の皆さんの旺盛な好奇心と活発な議論を希望します。

英語受験コース

新高3生を対象とする講座です。

講座コード 講座名 通常授業との対応	レベル	内容紹介
◎ E9 英文法徹底解明 英語受験科A 必修-①	☆☆☆	本講座は、英語受験科A春学期通常授業の続きです。英文法の各分野について、英文法全体との整合的な視点から解説します。自学自習が困難、あるいは自学自習によって問題を大きくしてしまうような文法事項につき、解説を聞くことによって、不明瞭な点を一挙的・決定的に解消することを目指します。特に、今回扱う「時制・態」「法」「否定」「倒置」「助動詞」は、いずれも英文法の根幹であり、かつ、曖昧な部分を残しやすい分野です。これを機に、理論的な英文法の学習を卒業して、個別的な文法知識への適用に移っていきましょう。また、別冊テキストには、当該分野の基本例文が平均100個ほど掲載されています。通常授業で扱った範囲の例文は、この授業で小テストとして試験します。 (受講には担当講師との面談が必要です。)
◎ E10 長文演習と自動処理化 英語受験科A 必修-②	☆☆ ☆☆	本講座は、英語の基礎をおおむね習得した中・上級者を対象に、長文演習と自動処理の2パートで解説を行います。 長文パートでは、予習してきてもらった長文の解説を講師が行います。長文の分量は比較的短いですが、内容的には骨のあるものを精選しています。 自動処理パートでは、読解に直結する英語脳の働かせ方の習得を目指します。講師が注意すべき表現に対する心構えを概説したのち、授業中にテーマに沿った短文を次々と和訳していつてもらいます。テキスト『認識から自動処理へ』を用います。
◎ E11 基礎英文法通解1 －比較・助動詞－ 英語受験科B 必修-①	☆☆☆	本講座は、英語受験科B春学期通常授業の続きです。中学英文法と高校英文法の基礎がまだ定着していない初級者を対象に、根幹となる文法概念や表現を詳説し、徹底的な英作文演習によってそれを血肉化する講座です。今回扱う範囲は、①「比較」、②「その他の助動詞」です。毎回のテキストには各文法分野に応じた宿題を付し、十分な演習量で定着に万全が着せるよう配慮されています。「漏れなく、飛躍なく」を標榜する当講座を通して、基礎に徹することが応用への近道であること、さらには夏以降の飛躍への鍵であることを実感してもらいたいと思います。 (受講には担当講師との面談が必要です。)
◎ E12 基礎英文法通解2 －代名詞・冠詞・否定・倒置・語法－ 英語受験科B 必修-②	☆☆☆	本講座は、英語受験科B春学期通常授業の続きです。中学英文法と高校英文法の基礎がまだ定着していない初級者を対象に、根幹となる文法概念や表現を詳説し、徹底的な英作文演習によってそれを血肉化する講座です。今回扱う範囲は、①「代名詞」、②「冠詞」、③「否定」、④「倒置」、⑤「語法」です。毎回のテキストには各文法分野に応じた宿題を付し、十分な演習量で定着に万全が着せるよう配慮されています。「漏れなく、飛躍なく」を標榜する当講座を通して、基礎に徹することが応用への近道であること、さらには夏以降の飛躍への鍵であることを実感してもらいたいと思います。 (受講には担当講師との面談が必要です。)

※ ◎のついている講座は通常授業を受講していない外部生におすすめの講座です。

国語受験コース

今年度大学受験する人を対象とする講座です。

講座コード 講座名 通常授業との対応	内容紹介
◎ J1 〈現代文〉 現代文読解の方法 〈古文・漢文〉 古典読解基礎講義 受験科国語 必修-①②	〈現代文パート〉 現代文で一番困るのは「何となくわかるけど、点数が取れない」ということです。しかも、何となくはできるために対策を怠り、最後まで点数がのびない教科になってしまいます。できない原因は二つ。「問題文を何となくしかわかっていない(正確に読んでいない)」こと、さらに「設問の要求と解答がズレている」こと。相手を誤って理解し、その要求と違うものを渡しても、喜ばれないのと同じです。 授業ではこの二点にポイントを絞ります。文章を正確に読む方法と設問のニーズに応じた解答の作り方を学び、「何となく」という現代文の落とし穴を脱出することがこの講座の目的です。 〈古文・漢文パート〉 古文・漢文はそもそも現代語と地続きの日本語なので、感覚的に読める部分も多くあります。しかし、現代と時間的に隔たっている以上、感覚だけでは正確に読めないのが現状でしょう。もちろん、文法を丸暗記してひたすら文章を分析していけば、読むことは可能になりますが、それでは時間がかかって仕方がありません。古典読解への近道は、現代語とは異なる部分に重点を置いて文法を理解し、それを適切に用いていくことです。まずは、文章を読む際につまずく原因となる箇所ポイントを絞り、現代語の感覚では補いきれない文法や読むためのルールを手に入れます。そして、得られた知識を、要領良く最適な方法で用いることを確認していきます。必要最小限の文法で文章を正確に読み解く方法を身に付けることが、本講座の目的です。 (現代文パートと古文・漢文パートの両方の受講のみ許可しております。受講希望の場合は担当講師との面談が必要です。)